時事新報には毎號詳細なる商况物價の報告あり

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報

第三千七百五十九號
明治廿六年九月十三日　水曜日
舊暦癸巳八月四日（癸、丑）
日出午前五時二十三分　日入午後五時五十分
月出午前八時三分　月入午後七時十九分
滿潮午前七時七分　滿潮午後七時二十四分
（西暦一千八百九十三年）

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商况物價の報告あり其代價遞送料は左の如し

一號　貳錢五厘〇一ヶ月　前金五拾錢〇三ヶ月　前金壹圓四拾五錢〇六ヶ月　前金貳圓八拾五錢〇一ヶ年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報遞送料

一　日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一ヶ月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一ヶ月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一ヶ月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一ヶ月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、淸國諸港　一ヶ月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

	一月限	六日迄	一日以上	七日以上
一行五號活字廿四字詰				
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘	

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を揭ぐること尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

京濱鐵道

新橋横濱間の鐵道は開國以來第一番に敷設したる線路として有名なるのみならず其乘客の多くして利益の豐なる點に於ても他に肩を並ぶるものある可らず今日政府が數百哩の鐵道を所有して年々相當の利益を收めつゝあるも畢竟するに京濱又は坂神鐵道の如き收利の大なるものありて恰も薄利なる他の線路の埋合と爲るが故なりと云ふ左れば京濱間の鐵道は我國に取りては最も大切なる線路にして是れが監督の任に當る者は常に油斷なく其營業方法に意を用ひ出來得る丈けの力を盡して以て自から利し又公衆に便益を與ふるの覺悟ある肝要なるに然るに實際に鐵道廳の爲す所を見れば如何にも緩漫冷淡にして十數年來殆んど同一の筆法を以て業務を執り更に改良進步を謀るの模樣なく公衆に非常の迷惑を感ぜしめて一向に平氣なる者の如し京濱鐵道の執務に就ては其不都合の箇條少なからざる中にも我輩の最も遺憾とする所は毎日發車の度數極めて少なきの一事なり鐵道廳の時刻表を見るに新橋横濱兩驛より双方に向て發する度數、日々午前六時より午後十一時十五分迄での間に各々十七回に過ぎず今試に明治十六年の時刻表を見るに兩驛よりの發車は午前六時四十五分より午後十一時に至るまで總て十五回なり即ち過る十年間に發車の度數は僅に二回を增したるのみ而して此二回も全く東海道鐵道開通の爲めに增加したるものとすれば京濱鐵道の運搬法は明治十六年以來更に進步せずと云ふも決して過言に非ざる可し文明の進步矢の如くにして社會百般の事物舊を棄てゝ新に就く此繁忙の世の中に一國文明の標準とも稱せらるゝ鐵道の事業のみ獨り停滯して數年の間更に面目を改めずとは實に言語に斷へたる次第にして之を利用して商賣を營む人々は申すに及ばず社會一般の爲に無上の迷惑と云はざるを得ず現に今日京濱間を往來する者は必ず前以て鐵道時刻表を暗記し發車の時來れば用談未だ終らざるも急に人力車を走らせて停車場に至らざれば或は目的の列車に乘後れて一時間に餘る大切なる時を空しく待合室に費やすこと多し或人の話に東京より横濱に急用あるとき汽車の時刻を待合せずして直に自轉車に乘て出發すれば往々汽車よりも先着することありと云ふ實に驚入りたる次第にして何と評論の言葉もある可らず若しも英國米國などの鐵道會社にて此の如き緩漫不都合もあらんには人民は必ず非常に激昂して會社を攻擊し決して默々に看過することなかる可し英國大北鐵道會社の汽車にフヒンスベリーパーク停車場より市の中央に向て凡そ五哩間を走るものありて終日毎五分間に一度づゝ出發するの定めなりしに人民は尙ほ之に滿足せず是非とも五分を短縮して三分にす可しとて物論囂々たりしにぞ會社も止むを得ず遂に毎三分發車と改めたるは現に去年の事なり倫敦と東京と相比すれば自から事情の異なる所もある可きなれども其鐵道の發車に一方は毎五分を待長しとし一方は一時間餘にて滿足とは其懸隔も亦甚だしと云ふ可し

或は今日京濱間の旅客荷物を運搬するには日々十七回の發車にて充分なり發車度數の少なきが爲めに世間に多少の不便あるも鐵道廳の知る所に非ず鐵道廳は現在の仕組にて利益に不足なければ故らに改革を施して却て營業費を增加し純益を減ずるが如き愚を爲す可らずと云々の說もあらんかなれども斯の如きは即ち鐵道の專權を奬勵して人民の利害を犧牲に供せんとするものなり元來鐵道は他の營業に異なり競爭の災を棄ることと極めて稀なるものなれば若しも營業者の爲すが儘に任して之を制止することなきときは忽ち專有の姿を成して其會社の私利の爲めに天下人民の利益幸福を蹂躙せらるゝの恐なしとせず左れば何れの國にても鐵道會社が唯自家の都合のみを目的として勝手次第に營業することをば禁止して以て社會公衆の利益を保護するの策を取らざるはなし故に今政府が其所有の鐵道に競爭者なきを幸として公衆の利害を度外視することもあらんには人民は其不平を訴へて政府の不都合を責るに憚る所ある可らず彼の帝國議會などに政府攻擊の議論は隨分盛なれども槪ね皆無形の權理論に止り右の如き有形の實利害に關する問題には頓と意を注ぐ者なきこそ遺憾なれ議會の議論は兎も角もとして我輩は社會の實用の爲めに鐵道の利を利せんとする者なれば假令ひ今日列車發着の度數を增加するが爲めに鐵道廳の會計に多少の損失を生ずるの恐ありとするも公衆の利益の爲めには其斷行を促さゞるを得ず况んや事の實際に於て發車を增加して京濱間の往來を手輕にすれば自然これに誘はれて營業の繁昌を致し會計上は從前に比して却て利する所ある可きに於てをや躊躇す可き場合に非ざるなり然りと雖も若しも政府が飽くまでも改革を嫌ふて是非とも今日のまゝにて押行んとの決心ならば我輩は復た强ひて論爭する所なく唯當局者に向て現在の京濱鐵道の線路に並行して新に私設鐵道の許可を求る者なり目下官線の運搬法は發車の度數少なくして賃錢も安からず都て商賣上に不完全なれば政府をして其不完全のまゝに之を守らしめ爰に之と並行して一線の新鐵道を敷設し有らゆる手段を盡して乘客の便利を謀りたらんには必ず非常の收益ある可きは明白にして一度び許可を得たる上は其資金の如きは立ろに集るに相違ある可らずと我輩の敢て保證する所なり左れば政府は現在の運搬方に大改革を加へて以て公衆の便利を謀るか或は十數年來の舊筆法を墨守して自から居り人民をして競爭線の私設に着手せしむるか二者その一に決する所なかる可らず何れにても苦しからず我輩は唯當局者の意見如何を聞かんと欲する者なり

雜報

○袁氏の策行はれず　近頃仄に風說を聞くに京城駐在の袁世凱氏は朝鮮政府に說くやう朝鮮は國貧しく兵弱きが故に他日西比利鐵道の全通するに至れば到底獨力を以て一國を防禦すること能はざるべし就ては朝鮮兵をして支那服を着せしめ外見全く支那兵の如く裝はしむることゝすれば服裝は勿論軍器銃炮等悉く淸國より給與して不足なからしむべし左すれば朝鮮は費用を要せずして精銳の兵士を得るのみならず一朝事あるに望んでも依て以て國安を維持することを得べし即ち一擧兩得の策なりとの趣意にて其向きを勸誘したりしが流石に應ずるものなくして止みたりと云ふ

○秣輸出禁止案　獨逸國にては此程上院に於て秣輸出禁止案を可決せり右は本年各地旱魃のため軍馬に供する秣草の欠乏を豫防せんがためなるべしと此程或方へ達したる特報に見ゆ

○墳墓の發掘に關する二樣の觀察　相馬誠胤氏の墳墓發掘に就ては世間に種々の風說を傳ふれども固より豫審中の事にて秘密に屬すれば唯だ其の取調上已を得ざるの手續に出でたるものなりと云ふの外容易に當否の判斷を下し難しと雖も今之に關し專ら世間に流傳する二樣の觀察を記さんに一は墳墓の發掘を以て愈々罪跡現存の徵證と爲すの積極論者にして他は之を以て被告の無罪を證明し天下の疑團を解くの手段と爲すの消極論者なるが積極論者の之を以て罪跡確在の證と爲す所以は抑も死者の墳墓を發掘するは人生悲慘の極にして人情の尤も忍び難き所なり然るに豫審判事此の忍び難きの情を忍んで人生悲慘の事を爲す必ず深因の存する勿んばある可らず試みに當時の事情より察するも血液の分析より榊、片山兩國手の家宅搜索となり更に突然墳墓の發掘となりたるを見れば又以て多少の證跡ありて遂
たるものならんと
する所は全く之に
て受理せざりしも
したる次第にて云
以て起訴したるも
析等にて既に事件
多年種々の風說を
死體の解剖にして
後日疑惑の種子を
なれば寧ろ此際其
拂するに若かずと
んと云ふに在りと

○帝國大學の講

文科大學の部

國語學、國文學、國
國語學、國文學、國
第二講座擔任ヲ命
同第三講座擔任ヲ命
同第四講座擔任ヲ命
漢學、支那語學第
講座擔任ヲ命ス
史學、地理學第一講
哲學、哲學史第一講
心理學、倫理學、論理
同第二講座擔任
社會學講座
擔任ヲ命ス

理科大學の部

數學第一講座
擔任ヲ命ス
同第二講座擔任
應用數學第一講座擔任
星學第一講座兼擔任
物理學第一講座擔任
同第二講座擔任
化學第一講座擔任
動物學第一講座擔任
同第二講座擔任
植物學講座擔任
地質學、古生物學、鑛
同第二講座擔任
人類學講座擔任ヲ命
地質學、古生物學、鑛

農科大學の部

農藝化學、化學第一
講座擔任ヲ命ス
動物學、昆蟲學、養蠶
同第二講座擔任ヲ
畜產學、講座擔任ヲ
農林物理學、氣象學
講座擔任ヲ命ス
家畜内科學、家畜外
同第二講座擔任ヲ
林學第二講座擔任ヲ命
植物學講座擔任ヲ命
家畜解剖學講座擔任
家畜生理學講座擔任

○學校の改革

は來る十五六日頃新
るよし

○内外人訴訟の

り埼玉馬車鐵道株式
新井萩右衛門、杉原
鋼鐵軌條十五哩代金
る紛議事件は去二十
京の田原[illegible]平、棚橋
り兼て審理中なりし
願下げを爲したりと